

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100590		
法人名	医療法人社団あさひ会		
事業所名	グループホーム きぼうの家 (2階)		
所在地	北海道釧路市浦見5丁目3番4号		
自己評価作成日	令和 4年11月29日	評価結果市町村受理日	令和 5年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100590-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の個性を尊重し、これからの人生も豊かに過ごしていけるよう、生活の中で役割や楽しみを見つけていく支援をおこなっています。
 新規開設より1年が経過し、入居者様、ご家族、地域の方々、従業員ともになじみの関係を築いていけるよう努力しています。入居者様の不安を少しでも和らぐことができるよう、個々に寄り添った支援をおこなっています。
 感染症の終息の見通しが立たない現在、施設の中で何ができるか意見を出し合い、レクリエーションに反映させています。
 また、日々の体調観察に留意し、入居者様が安心・安全に暮らしていけるよう、法人内や協力医療機関との連携を図っています。
 従業員育成のため、他職種との意見交換や講習会・研修会に積極的に参加し、施設内研修に活かしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年12月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	○		○	○
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、意識を共有できている。コロナ禍のため地域との繋がりは希薄だが、その他については理念に沿って実践できている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会長との交流はあるが、コロナ禍のため地域の行事等はなく、参加や発信はできていない。近所の方や近隣の企業の方と顔を合わせた時は挨拶を心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターを通して看護学生との交流を持つことができた。認知症の方と実際に交流を持ち、理解を深めるお手伝いができた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、書面開催が続いているが、日々連携を取り合い、貴重な意見・要望をいただき、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や運営で不明な点があれば随時連絡を取り合い、適切なアドバイスをいただいている。メールや電話で些細なことでも連絡を取り合うことができている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けた委員会を設置し、身体拘束防止に努めている。職員研修を定期的におこない、スピーチロックや具体的な身体拘束を事例として学び、理解を深めケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会の参加や施設内研修にて学ぶ機会を設けている。虐待へ繋がる言葉や態度の理解を深め、職員同士声を掛け合いながら、虐待防止に努めている。		

グループホーム きぼうの家（2階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用実績はなく、理解はまだ浅い。施設研修の課題として予定しているが、現在未実施であるため、講習会等があれば積極的に参加を呼びかける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず契約内容、重要事項を説明し、利用者様、ご家族等に不安や質問がないか確認をおこない、十分な信頼関係を構築できるよう丁寧な対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	関わりの中でコミュニケーションを大切に、意見や要望をいただいている。管理者以外の職員もご家族と関わる機会を増やし、些細な事でも話しやすい関係を構築し、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中や、職員会議の中で意見や提案を聞いている。定期的に個人面談をおこない、ポジティブに運営に反映されるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や保有資格による給与水準があり、勤務状況、向上心がある者の努力が反映されている。希望に沿った勤務ができるよう配慮している。委員会担当を決め、各自やりがいや責任感を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を充実させている。外部研修はZOOMにて希望者には積極的に参加してもらっている。個人目標を立ててもらい、個々の力量に合ったフィードバックをおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連携会議や研修会等に参加し、同業者との交流を図り意見交換をおこなっている。また、法人内の他施設とも情報交換をしながら、共にサービスの質を向上させていけるよう努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や見学時にご本人からの思いをゆっくり傾聴している。不安や要望を伺いながら、いつでも相談に応じることができるよう伝え、安心して利用できるような関係づくりに努めている。		

グループホーム きぼうの家（2階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安、要望等を伺い、状況を把握しながら具体的なケアなどを説明し、丁寧な対応に努めている。ご家族の思いを受け止め、納得のいくまで相談を受け付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況を把握し、その時に適したケアを提案している。場合によっては地域包括支援センターや他事業所と連携を図り、ご本人に合ったサービスを提供できるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事や身の回りのことは、得意なこと・できることを奪うことのないよう、職員とご本人で一緒におこないながら、暮らしに寄り添う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話連絡にて近況報告をおこない、健康状態や日々の生活の様子などを共有している。些細なことでも相談し合える関係づくりを心掛け、支援に活かすよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、知人や馴染みの人と触れ合う機会が持てるよう配慮している。感染対策を講じながら、遠方の親戚宅へ出向いた方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や症状を把握し、互いに交流を楽しむことができるよう席の配置を工夫したり、職員が間に入り関わりを保つよう努力している。ご夫婦で他ユニットに入居している方もいて交流を絶やさないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でもいつでも相談に応じることを伝え、築いた関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から思いや意向を把握し、記録に残し情報を共有している。意向把握が困難な方は本人本位の検討がまだ不十分な場合もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談、入居時に聞き取りや質問形式のシートに記入してもらい、これまでの暮らしの把握に努めている。これまでの支援関係者による情報提供で、サービス利用経過等を把握している。		

グループホーム きぼうの家（2階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を観察し、関わりを持ちながら記録に残している。朝夕の申し送りでも情報共有をし、必要時はカンファレンスを検討。その人に合ったケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向や要望を取り入れたケアプランの作成に努めている。定期的にケアカンファレンスをおこない、課題やケアの見直しをおこない、現状に合ったケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個別に記録している。小さな気づきや工夫を職員間で情報共有ができています。申し送りや連絡ノートを活用し、より良いケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望にできるだけ応えることができるよう、施設内で話し合いの場を設けている。法人内や提携医療機関等の協力を得ながら、柔軟なサービスを提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域や外部との接触が少ない。地域の楽団に所属している職員を通し、ボランティアの慰問演奏をおこなったことが強く印象に残っているようで、楽しみを持ち、豊かな暮らしができるよう支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にしながら、ご家族に受診同行をお願いしている。受診時は経過報告や生活の様子を情報提供している。必要時は法人内の医療機関と連携し、日々適切な医療を受けることができるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人看護師や、訪問看護、往診時に健康管理や気になる事の相談を職員がおこなうことができている。また、病気、症状の早期発見や早期治療ができるよう、適切なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や医療機関と連携を図り、適切な情報提供がおこなえるよう努めている。入院中も随時経過を聞き取り、退院後に向けて医師、看護師、相談室、ご家族との情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについての指針を作成し、入居時にご本人、ご家族の意向を確認している。必要な時が来たら随時話し合いの場を設け、できる限りの対応を検討する。医療機関と連携が図れる事のできるよう努める。		

グループホーム きぼうの家（2階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、初期対応に備えている。救急搬送時に的確な情報提供ができるよう、服薬状況等の情報ファイルを作成している。実践的な訓練は研修が必要。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に迅速な対応ができるよう、利用者様と共に避難訓練をおこなっている。町内会と合同の訓練予定があるが、コロナ禍で実施できていない。必要時に備えて災害時用備蓄品を備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を尊重し、一人ひとりに合った声掛けや、プライバシーに配慮した対応をおこなっている。プライドを損ねないように、言葉遣い等には特に配慮しているが、感情が出てしまう職員もいる。職員間で注意し合える環境づくりに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から、ご本人の思いを傾聴しているが、否定的な自己決定が多く、ニーズを汲み取る努力が必要。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にしながら、一人ひとりのペースや体調を把握しているが、時に職員本位で対応をしてしまっている場合があるため、改善をおこなっている。個々の好みのレクリエーション等を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のこだわりや好みを尊重しながら、清潔に過ごせるよう衣類のアドバイスをおこなっている。女性には化粧を楽しんでもらったり、おしゃれを楽しんでもらう支援をおこなっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや禁忌食を把握し、季節の物を取り入れたり、菜園と一緒に収穫した野菜を料理に使用している。食器拭きやテーブル拭き等、できることは一緒におこなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を把握している。食材を細かく切ったり等、その人に合った食事形態を用意し、栄養を十分に経口摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアを見守りをおこないながら実施している。定期的な歯科往診にて、本人や職員に技術指導を含め、歯科衛生士や歯科医師による口腔衛生管理をおこなっている。		

グループホーム きぼうの家（2階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導、介助をおこなっている。できる限りトイレで排泄できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを用いて一人ひとりの排便状況を把握し、必要時は看護師や医師に相談している。水分摂取の方法を工夫したり、毎日の体操で便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員不足のため、入浴表を用いて設定してしまっている。希望やタイミングが合わなければ予定を変更したりと、なるべく柔軟に対応できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせ、安心できるようご家族の協力のもと自宅で過ごされていた雰囲気のままの居室づくりに努めている。日中に活動量を増やし、夜間安眠に繋げる支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの既往歴、内服薬の用法、副作用について理解している。症状に変化があればかかりつけ医や看護師に報告している。服薬時には職員2名で確認し合い、誤薬防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなテレビ番組を観たり、パズルや縫物など、個々の好きなことで楽しみのある生活をおくってもらえるよう支援している。家事等、役割を奪うことのないよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で希望に沿った外出支援はおこなえていないが、暖かい日は近所を散歩したり、菜園に野菜を収穫に行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者様が多く、金庫にてお預かりしている。買い物や必要時には希望を伺いながら自由に使えるよう支援している。		

グループホーム きぼうの家（2階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた手紙は必ずご本人に手渡し、お礼の電話等を掛けることのできるよう支援している。希望時は手紙を出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を一緒に作り、四季の移り変わりを感じながら過ごしていただいている。温度計、湿度計を確認しながら心地よい空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで夫婦でくつろいだり、気の合う方同士で会話やコミュニケーションが取れるよう、席の工夫をおこなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や馴染みの物を持参していただき、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。必要に応じてご家族に相談し、望みの物を持参いただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう、各所に手すりを設置している。トイレの場所や居室ドアなどには大きな貼紙でわかりやすく表記し、安心してできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		